



令和4年度
「令和の里海づくり」モデル事業実施業務
(大崎上島の雄大な里海景観と海の恵みを体験し考察するツアー)

業 務 報 告 書



大崎上島町 神峰山 第三展望台より

令和5年2月
一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会

目 次

1	業務概要	1
1.1	業務目的	1
1.2	履行期間	1
1.3	業務内容	1
1.3.1	エコツアーの企画・運営	1
1.3.2	アンケート調査	1
1.4	業務スケジュール	1
1.5	ツアー催行海域	2
1.6	安全衛生管理	3
1.6.1	ツアー催行時の注意事項	3
1.6.2	新型コロナウイルス感染症対策	3
2	業務実施結果	4
2.1	エコツアーの企画	4
2.1.1	第1回目の企画	4
2.1.2	第2回目の企画	5
2.2	ツアーの集客	7
2.3	ツアー実施状況	7
2.3.1	第1回目ツアー	7
2.3.2	第2回目ツアー	12
2.4	アンケート結果	17
2.4.1	選択形式	17
2.4.2	課題・改善点	26
2.5	ツアー実施後のフィードバック（議事録）	27
2.6	有識者等の意見への対応	28
3	本業務の課題と成果、今後の展開等	29
3.1	ツアー主体者（大崎内浦漁業協同組合）	29
3.2	ツアー主体者（その他）	29
3.3	大崎上島の里海好循環構想	30
3.4	自走化に向けた座組（役割分担）	31
3.5	評価指標について	32

巻末資料.....33～

- ツアー集客用チラシ
- アンケート用紙

1 業務概要

1.1 業務目的

環境省事業「令和4年度藻場・干潟の保全・再生等と地域資源の利活用による好循環モデルの構築等業務」の一環として、閉鎖性海域等の沿岸地域において地域の多様な主体と連携しながら、藻場・干潟等の保全・再生等と地域資源の利活用による好循環形成に向けた「令和の里海づくり」に係るモデル事業を実施した。

1.2 履行期間

自 令和4年8月29日

至 令和5年2月15日

1.3 業務内容

1.3.1 エコツアーの企画・運営

大崎上島町漁業協同組合による①藻場・干潟再生および②毎週実施している「朝市」の2つの取組を地域の資源と捉え、それらを観光の視点で繋ぎ、活動を継続化させることで地域活性化に寄与することとした。具体的には、環境学習（担い手育成）の観点も取り入れ、地域の学生を対象としたエコツアーを2日程度開催することとし、改めて「大崎上島地域の海辺を守る会」と十分協議し、決定するものとした。

なお、本事業は、大崎上島町の「令和の里海づくり」構想・計画の項目（交流、交通（その他）、情報発信、流通（物流）拠点、藻場・干潟の保全と資源活用）を融合させた位置づけとした。

1.3.2 アンケート調査

エコツアー体験者にアンケートを実施し、課題や効果的なコンテンツなどを抽出した。その結果を大崎上島町、観光協会、漁業者など関係者にフィードバックし、大崎上島町の「里海づくり」のための課題やコンテンツなどを共有し、以降の活動の糧とすることとした。

上記業務をはじめ藻場・干潟等の保全・再生等と地域資源の利活用による好循環形成に向けた取組について、その取組の内容や状況に応じ、イベント、ウェブサイト、SNS、動画等を活用してターゲットや内容に応じ効果的な情報発信を継続的に実施するよう努めることとした。

1.4 業務スケジュール

業務スケジュールを表1.1に示す。

表 1.1 業務スケジュール

年月日 業務項目	令和4年												令和5年					
	9月			10月			11月			12月			1月			2月		
	1日	10日	20日	1日	10日	20日	1日	10日	20日	1日	10日	20日	1日	10日	20日	1日	10日	
打合せ・協議			■			■		■	■			■				■	■	■
ツアー企画・調整	■	■	■	■	■	■	■	■	■									
集客活動			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
ツアー催行									■		■							
フィードバック活動												■	■	■	■	■	■	■
報告書作成															■	■	■	■

1.5 ツアー催行海域

ツアー催行海域を図 1.1、図 1.2 に示す。



図 1.1 ツアー催行海域（広域図）



図 1.2 ツアー催行海域（詳細図）

1.6 安全衛生管理

1.6.1 ツアー催行時の注意事項

(1) 全般

- ・ ツアー催行にあたりイベント保険の加入を行った。
- ・ イベント会場への移動時は交通ルールを順守し、事故の防止に努めた。
- ・ 船上、陸上会場で出たゴミは、すべて持ち帰り、適切に処理した。
- ・ 荒天が見込まれる際には、ツアー中止の準備（連絡）を実施した。
- ・ ツアー中に撮影した画像が環境省等の HP の掲載される可能性があるため、ツアーの説明時に口頭で承諾を得た。

(2) 海上会場

- ・ 海上に出る前に危険予知活動として、参加者に船上での留意事項や船への昇降時の留意事項の説明を行った。
- ・ 船上では船長以外に 2 名以上のスタッフを配置し船上での安全を確保した。

(3) 陸上会場

- ・ 包丁等の刃物や火の扱いを十分参加者に説明を行った。
- ・ 食事に関して、参加者からアレルギーの有無を確認した。アレルギー保有者には食事内容等別途対応した。
- ・ 第三者の歩行や交通に支障がない場所でイベントを実施した。

1.6.2 新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 参加者の受付時にはアルコール消毒、検温を実施した。
- ・ 室内では原則マスク着用とした。なお、屋外でのマスク着用は個人判断とした。

2 業務実施結果

2.1 エコツアーの企画

エコツアーの企画にあたり大崎上島の海辺を守る会（大崎内浦漁業協同組合）、大崎上島町観光協会、地域コーディネーターの方（「一般社団法人まなびのみなと」メンバー 後に大崎内浦漁業協同組合組合員）とそれぞれ協議した。

また、大崎上島町にはエコツアー実施の連絡と必要に応じて今後ご支援頂くよう依頼した。

2.1.1 第1回目の企画

当初の企画は、第1回目ツアーを令和4年11月6日、第2回目ツアーを令和4年11月26日に実施することとした。それぞれのプログラム内容を以下に示す。

なお、仕様書や当初計画していた地元の「朝市」の見学（状況により購入）は開催が土曜日限定であり、時間帯も他のプログラムとの組み合わせが困難であったため、協議の結果プログラムから外すこととした。

☆第1回目ツアータイトル：もっと知ってほしい、大崎上島のこと。

【概要】

（体験型環境学習として「アマモの播種」も検討したが時期的に実施不可能であった。）

- ・内容：座学（アマモ・里海）・シーカヤック+海の診断（海域環境調査）・調理体験。

- ・ツアーのストーリー

シーカヤックを体験しながら、海の診断として海域環境調査を実施し、海域の中長期モニタリングの必要性を伝える。また、海域の環境や漁業生産を把握すること、アマモ場・干潟、スナメリ、白砂青松などの変化を把握することの重要性を伝える。併せて、旬の魚を使った調理体験を通して現在の漁業実態を伝える。

- ・実施結果：大崎上島町でコロナ罹患者が増え、参加者のキャンセルが相次ぎ延期とした。

☆第2回目ツアータイトル：もっと知ってほしい、大崎上島のこと。

【概要】

- ・内容：座学（アマモ・里海）・アマモの播種・刺し網体験・調理体験

- ・ツアーのストーリー

アマモの播種を通じて、水産資源を育むアマモ・藻場について伝える。また、刺し網体験を通じ、地元の魚・漁法について伝える。併せて、旬の魚を使った調理体験を通して現在の漁業実態を伝える。

- ・実施結果：第1回目の延期により、改めて「海辺を守る会」や関係者と調整。第1回目の集客に苦労した点として「学習」というキーワードが参加者を遠ざける大きな要因の1つであり、チラシの内容等を修正することとした。

2.1.2 第2回目の企画

第1回目ツアーを当初第2回目であった令和4年11月26日に、第2回目ツアーを令和4年12月10日に実施することとした。それぞれのプログラム内容を以下に示す。

なお、当初第1回目に予定していたシーカヤックは、シーカヤック催行者から時期的に不適切である（寒い）とされ、プログラムから除外した。

一方、刺し網漁としては寒い方が獲れる可能性が高くなることから、2回とも刺し網漁体験を主体とし、同じプログラムを2回実施することで催行の充実化を図ることとした。

☆第1,2回目ツアータイトル：大崎上島で「無料」刺し網漁体験！！

【概要】

- ・内容：座学（アマモ・里海）・アマモの播種＋海の診断（海域環境調査）・刺し網体験
・調理体験
- ・ツアーのストーリー

アマモの播種や海の診断として海域環境調査を実施し、海域の中長期モニタリングの必要性を伝え、海域の環境や漁業生産を把握すること、アマモ場・干潟、スナメリ、白砂青松などの変化を把握することの重要性を伝える。刺し網体験を通じ、地元の魚・漁法について伝える。併せて、旬の魚を使った調理体験を通して現在の漁業実態を伝える。

【プログラム】

第1回目ツアー終了後に課題点を抽出し、ロジや役割、チラシの修正等を行った。最終版のチラシは巻末に添付する。

ツアースケジュールを表2.1、プログラムの詳細を表2.2に示す。

表2.1 ツアースケジュール

時間	プログラム
08:30～08:50	集合 大崎内浦漁業協同組合
08:50～09:30	オープニング ～大崎上島の漁場環境となりわいである漁業について～
09:30～10:00	アマモ、藻場について知ろう（座学）
10:00～10:15	船上の安全確保について
10:15～12:15	アマモ播種体験、刺し網漁体験
12:15～13:15	刺し網で獲った魚介の調理体験 ～食べること・食材・魚の生活環境を繋げよう～
13:15～14:30	昼食・意見交換 ～アイデアを大人たちに届けよう～
14:30～15:00	アンケート

表 2.2 プログラムの詳細

時間	プログラム	詳細
08:30～08:50	集合	・参加者確認、検温、資料配布等
08:50～09:30	オープニング	・大崎上島の漁場環境となりわいである漁業についての学習
09:30～10:00	座学	・里海・エコツーリズムについての学習 ・アマモ、藻場についての学習
10:00～10:15	乗船準備	・カッパ・長靴・ライフジャケット配布・着用 ・船上の安全確保についての説明
10:15～10:30	アマモ播種準備	・アマモの種を紙粘土に付ける作業
10:30～10:35	アマモ播種体験	・アマモ場を造成している海域において、紙粘土に付けたアマモの種を蒔きつつ、改めてアマモの解説。
10:35～10:45	海の診断 (海域環境調査)	・アマモ場の海域環境をモニタリングする意義の説明と、実際にアマモが生育している底層の海水を汲む方法（バンドン型採水器）や、透明度（植物の補償深度）を把握するための透明度板を用いた調査の実演。
10:45～12:15	刺し網漁体験	・参加者が刺し網を上げ、網から魚を外す作業を船長の指導のもと体験。
12:15～12:30	休憩	
12:30～14:30	調理体験 昼食・意見交換	・魚の三枚おろしなど、漁師等の指導のもと体験。 ・自分が捌いた魚に加え、漁協が用意したタイ飯や味噌汁で昼食。 ・昼食しながら、参加者と意見交換。
14:30～14:50	アンケート	・アンケート用紙の配布と記載 ・アンケートに書ききれなかったことや、感想などを改めて意見交換。
14:50～15:00	片付け	

2.2 ツアーの集客

地元の高校生を対象とし、表 2.3 に示す体制で集客を行った。なお、集客当初は応募者が少ない状況であったため、最終的な対象には中学校も含めることとした。

表 2.3 集客体制

対 象	担 当
広島商船高等専門学校	大崎内浦漁業協同組合
広島県立大崎海星高等学校	大崎上島町観光協会
広島県立広島叡智学園高等学校	大崎内浦漁業協同組合
大崎上島町立大崎上島中学校	大崎上島地域の海辺を守る会

2.3 ツアー実施状況

2.3.1 第1回目ツアー

(1) 参加者

参加者は表 2.4 に示す8名であった。参加者からの紹介で2名の島外からの参加者があった。

表 2.4 参加者

No.	学校名	性別
1	広島県立広島叡智学園高等学校	女性
2	広島県立広島叡智学園高等学校	女性
3	広島県立大崎海星高等学校	女性
4	広島県立大崎海星高等学校	女性
5	大崎上島町立大崎上島中学校	男性
6	大崎上島町立大崎上島中学校	男性
7	島外の高等学校	女性
8	島外の高等学校	女性

(2) ツアーの状況

ツアーの状況を以下に示す。



写真 2.1 受付の状況



写真 2.2 漁場環境と漁業の講義



写真 2.3 里海の講義



写真 2.4 アマモの生態の講義



写真 2.5 船上の安全作業について



写真 2.6 アマモ播種準備



写真 2.7 アマモ播種準備



写真 2.8 アマモ播種



写真 2.9 底層の海水の採水実演



写真 2.10 底質の感触（砂泥）の確認



写真 2.11 刺し網漁体験



写真 2.12 刺し網漁体験



写真 2.13 調理体験準備



写真 2.14 調理体験



写真 2.15 調理体験



写真 2.16 完成した調理の一部



写真 2.17 昼食



写真 2.18 アンケート実施状況

(3) 第1回目ツアー後の反省会等の結果

【課題】

- ・ ツアー前日夜と当日朝に主催者側でコロナ感染者や濃厚接触者が複数名発生した。ロジの再調整を行ったものの監督者不在になること、船1隻でのツアー組み換えによる段取り不足が否めなかった。
- ・ 大崎上島町でのコロナ感染者増加に伴い、漁協室内で行う予定であった座学を屋外で実施した。当日は11月末としては暖かかったが、参加者からは不評であった。
(コロナ罹患に対する感情面が、都会と地方とは違いがあり、細心の配慮ではあった。)
- ・ 余った料理を持って帰っていただけるような準備が必要であった。
- ・ イベント要素が強く、藻場干潟の保全という面については工夫が必要であった。
- ・ アンケートだけでなくしっかりと意見交換の場を設けた方が良かった。
- ・ 片付けまでをツアーの一環としたほうが良い。

2.3.2 第2回目ツアー

(1) 参加者

参加者は表 2.5 に示す 12 名であった。

表 2.5 参加者

No.	学校名	性別
1	広島県立広島智学園高等学校	男性
2	広島県立広島叡智学園高等学校	男性
3	広島商船高等専門学校	女性
4	広島商船高等専門学校	女性
5	広島商船高等専門学校	女性
6	広島県立大崎海星高等学校	男性
7	広島県立大崎海星高等学校	女性
8	広島県立大崎海星高等学校	女性
9	三原特別支援学校 大崎分教室	男性
10	大崎上島町立大崎上島中学校	男性
11	大崎上島町立大崎上島中学校	男性
12	大崎上島町立大崎上島中学校	男性

(2) ツアーの状況

ツアーの状況を以下に示す。



写真 2.19 受付の状況



写真 2.20 漁場環境と漁業の講義



写真 2.21 里海の講義



写真 2.22 アマモの生態の講義



写真 2.23 船上の安全作業について



写真 2.24 アマモ播種準備



写真 2.25 アマモ播種準備



写真 2.26 アマモ播種



写真 2.27 アマモ播種



写真 2.28 底層の海水の採水実演



写真 2.29 刺し網漁体験



写真 2.30 刺し網漁体験



写真 2.31 調理体験



写真 2.32 調理体験



写真 2.33 調理体験



写真 2.34 調理体験



写真 2.35 完成した調理の一部



写真 2.36 昼食



写真 2.37 アンケート実施状況



写真 2.38 集合写真

(3) 第2回目ツアーの課題後の反省会等の結果

【課題】(第1回目ツアーの課題は全て対応)

- ・船酔いする参加者が複数名発生した。酔い止めを持参するよう事前周知が必要であった。
- ・集合時間を間違えた参加者が複数名いた。確実な周知が必要であった。

【成果】

- ・2回のツアーを事故やトラブルもなく催行できたのは良かった。
- ・2回続けて実施したことにより、刺し網漁体験や調理体験の流れがスムーズになった。
- ・魚の調理は、お造りだけでなく唐揚げなども参加者が調理できたことが良かった。
- ・魚も美味しかったが、参加者には新鮮なタコやイカも好評であった。

2.4 アンケート結果

2.4.1 選択形式

アンケート結果は、第1回と第2回の回答を合算して集計した。

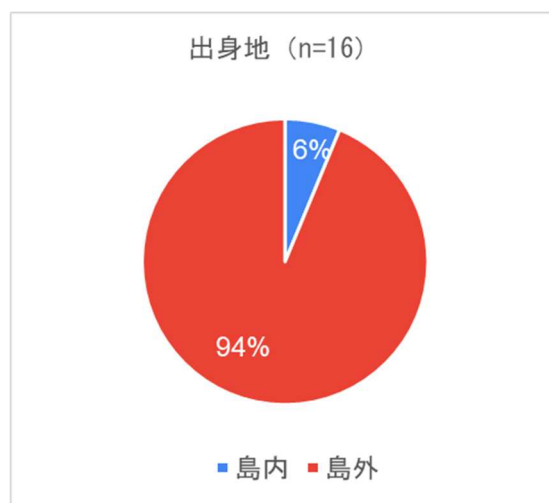
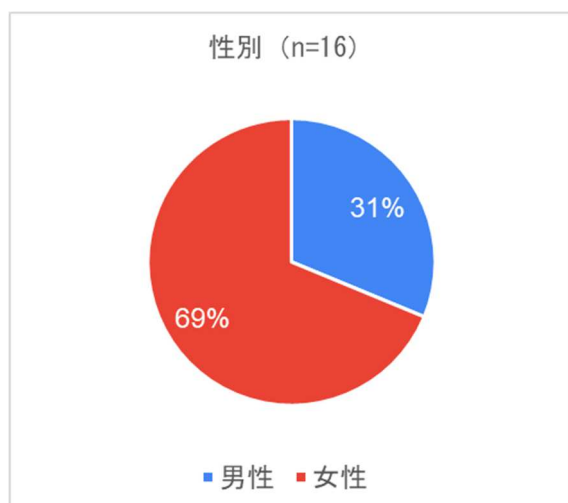
(1) 基本情報

① 性別

参加者は女性7割、男性3割であった。

② 出身地

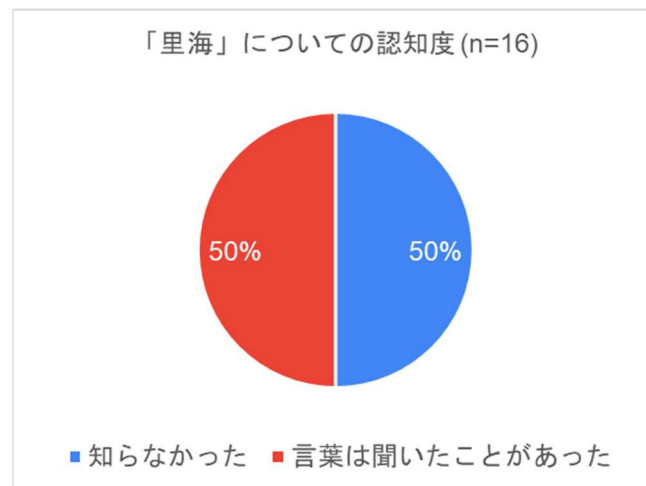
島内出身者が1名(6%)、島外出身者が15名(94%)であった。第1回エコツアー(11月26日)に関しては参加者の全員が島外出身者、第2回エコツアー(12月10日)に関しても1名を除く参加者が島外出身者であり、国土交通省が推進している離島留学の影響が伺える。



(2) 里海について

① 「里海」についての認知度

「里海」について、エコツアー参加前の認知度は低く、得られた回答は「知らなかった」・「言葉は聞いたことがあった」という回答のみであった。また、回答の中には里山について記載されたものがあり、「里山」という用語、概念の方が「里海」よりも認知度が高いことがわかった。参加者の回答から、エコツアーに参加したことで里海および自然環境についての認識が高まり、「里海は人の営みによって支えられている」という考え方へと繋がったことが明らかとなった。



■ エコツアーを経験して「里海」に関する考え方はどう変わったか

(自由記載；参考として添付)

- 今まで里海があたりまえだった。里海は自分を支えてくれていたと感じた。現在、里海がなくなってしまうので、これからは海などの自然を大事にしなければいけないと思った。
- 今まであまり注目してきていなかったけれど、注目してみると海にも環境の違いがあることが分かった。せっかく島に住んでいるので、大きな視点だけでなく、細かい事にも注目していきたい。
- 海には魚だけでなく海藻などたくさんの生物がいることで豊かになっているということが分かりました。
- 海と人がつながることは、海を保全することにもつながるし、人と人をつなぐものにもなると知ることができた。
- 守るべきもの、そして自分も今日、この海を守りたいと感じた1人でした。
- もともと名前だけは知っていたけど何かは知りませんでした。でも今回参加したことで、あまり詳しくは判らないけど、里海がある、保全されていることによって、人が集まったり、観光になったりすることが分かりました。
- 日本は海の幸に恵まれているから、日本、広島島の島に住んでいる者として海の豊かさを護る活動に参加したい。守らなければならない。里海が「里山」と同じくらい大切だからこの言葉が浸透したら良い。
- 里海は自分たちにとって身近なものなのかな、と思いました。
- 自分も将来海に関わる仕事につきたいと思っているので、環境保全、里海についての知識もつけておきたいなと思いました。
- 海を護ることが大切で自分たちでそれを(海を守ること)していかなければならないと思いました。
- 海を守るためにとても大切なことだということが分かった。
- 自分にできる範囲で協力していきたいと考えようになった。
- 日本は海の資源にめぐまれていたからあまり気にしてなかったが、今だんだんなくなっているときいて保護すべきと思った。
- 近くの海にこんなにも豊富な種類の魚がいることすら知らなかったなので、せっかく海が近いのでこの機会を通じて、さらにこの海の世界も含めて知っていききたいと思い、興味を持ちました。
- 自然と人間の生活のつながりが重要であるのは、既知であった里山に限らず、里海に関してでもあると学んだ。人間中心の一方的な開発、生活ではなく、自然に手をかけて、自然の恩恵を生かしたバランスのよい関わり方が大切だと学んだ。
- 自分達が、フェリーや魚で使用する海が里海であると認識することができた。里海は、有名な里山と同様に、管理をする必要があると感じた。自分達が好き勝手に使用していたり汚したり、魚を減らしたりするのではなく、-(マイナス)にしたなら0(ゼロ) or +(プラス)にする必要があると思った。

(3) アマモについて

①アマモについての認知度

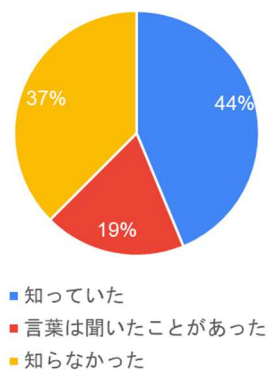
アマモについての認知度は「知っていた」が44%、「言葉は聞いたことがあった」が19%であり、2つ合わせるとアマモの認知度は63%となり、「知らなかった」の37%を上回っていた。

②アマモ場についての理解度（エコツアー後）

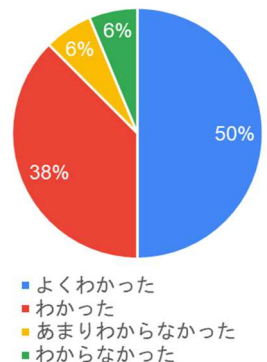
アマモ場が海の中で果たしている役割についての認識はエコツアー参加後に88%まで高まっており（「わかった」の38%含む）、これは、エコツアーによる効果が高かったものと考えられる。

具体的には、アマモの播種を体験したことで「実際にアマモを見たい」「アマモがどのように生育していくのか」といった感想や疑問が生まれ、エコツアーがアマモの成長に関する関心を引き出すことに繋がったといえる。アマモの播種が環境を守ることに繋がると理解した上で播種を行ったことが効果的であったという意見も見られ、引き続きアマモの生育を見ていきたいという環境問題への関心を高めることもできた。参加者によっては、アマモ場が里海の中で果たしている役割を認識するだけでなく、漁業というなりわいとの関わりまで捉えていた。

アマモについての認知度（n=16）



アマモ場についての理解度（エコツアー後）（n=16）



■ エコツアー後のアマモ場の役割についての認識（自由記載；参考として添付）

- 海のため、地球のためと思うともっとやりたくなった。
- アマモの播種の仕方が分かった。思ったより簡単だったので、様々な年代の人ができると思った。
- 実際にアマモを見ていないのでどういう風にアマモが役割を果たしているのか実感することはできなかった。また4〜7月くらいに見てみたい。
- 海にアマモの子供を放流するだけだと、上手に繁殖できないため、紙粘土を使うなどの工夫をすることで繁殖しやすくなるのが分かり、繁殖させるのにも手間がかかることが分かりました。
- アマモが海の中でどのような役割をしているのか知った上で播種をしたことでこれが環境を守ることに繋がると感じながら作業することができた。アマモの成長も気になったが、播種だけでも満足しています。
- 成長過程を見守りたいなと思いました。
- 映像を見て、上島でもしっかり育つことが分かりました。今回のような体験は、アマモの保存に少ししかかわれないけど、くり返していけば保全につながると考えました。
- 年間を通してアマモの播種の体験をしてみたい。アマモが実際に生えているかどうか潜ってみたい。
- 直接環境問題にかかわることができて、他ではできない貴重な体験ができたなと思いました。知らなかったことがたくさんあったので、やるのが大変でした。アマモの重要性も知ることができてよかったです。
- 初めは何もわかりませんでしたが、地域の方とアマモの播種しながらお話などを聞き、アマモのことを理解しながら作業できました。とても楽しかったです。
- 初めて魚をさわった。最初は抵抗があったが、さわっていくうちになれた。次はもう少し上手にさばけるように頑張りたい。
- 種をうめたり海になげたりするのが楽しかった。
- 自分たちがまいた種がどんなふうになくなっていくか過程も実際に自分の目で見たいと思ったし、はえている所も見てみたいなと思いました。アマモについては名前しか知らなかったので役割や現状など詳しく知れてよかったと思いました。
- アマモの播種が、漁場ひいては漁業という産業自体にとってどのような意義をもつのかを理解した上で体験することができた。作業自体も楽しかった上、漁業に、海に貢献することができたというやりがいを感じることができた。
- 効率よくアマモを育てる方法に興味を持った。粘土に炭をまぜて種を入れる一連の作業に効率の良さを感じた（合理的）。さらに、効果的であり、別のメリットをもたらす方法を探してみた。

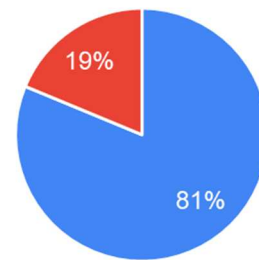
(4) 刺し網漁体験について

① 刺し網漁体験について

刺し網漁体験については、81%の参加者が「とても楽しかった」、19%の参加者が「楽しかった」と回答しており、「普通」・「あまり楽しくなかった」・「楽しくなかった」と回答した参加者はいなかった。このことは、刺し網漁体験がエコツアーのコンテンツとして非常にポテンシャルの高いものであることを示している。

具体的には、船上で「網にかかった魚を収穫できた」「初めて生きた魚を見た、触った」ことが非常に興味深かったという回答を得た。また、瀬戸内海でしか獲れない魚や、様々な漁法に関心を寄せた参加者もいた。本エコツアーによって、大崎上島で学んでいてもなかなか行けないところに行けたという貴重な体験の提供ができたともいえる。言い換えれば、「その場に身を置いて体験し、学ぶ」というエコツアーならではの経験によって、「地域固有の資源の保全に責任を持つ観光（エコツーリズム）」が提供できたと考えられる。

刺し網漁体験について（n=16）



■ とても楽しかった ■ 楽しかった

■ 刺し網漁体験について（楽しかったところ、楽しくなかったところ）

（自由記載；参考として添付）

- 網に魚がかかっていて発見した時のうれしさが良かった。よくない所は特になし
- 刺し網漁で釣った魚を網から取るなどの体験ができて楽しかった。
- 魚を獲ったのは初めての経験でした。かかった魚をすぐどの魚か分かるのが面白かったです。漁業には海にすむ魚の保全の役割もかねていることが分かりました。
- 網に魚がかかっているのかワクワクしながら刺し網漁の体験ができました。
- 自分で実際に魚を獲ることは貴重でとても楽しかったし、網を上げるのが大変だからこそ魚が美味しかった。船の中でアマモの説明をした方が、時間を短縮できるし、アマモも感じられると思う。
- 人生で初めて魚を釣った（とった）。
- 釣りはしたことがあったけど、刺し網漁の方がたくさん魚がとれて楽しかったです。
- 網にかかっている魚を自分で引き上げ、網から外したこと。漁船に乗って海で風に吹かれたこと。
- 私は、今まで漁や釣りを体験したことがなかったし、実際に生きている魚を網から外したり、さわったりすることがとても新鮮でした。上島のまわりは船で出たことがなかったし、実習でもあまり行けないところが多かったので、とても楽しかったです。
- 魚や岩などを網からとったりする作業が新鮮でとても楽しかったです。楽しくなかったのは、ありません。
- 初めて生きた魚を近くで見た所。
- 魚を網からうまくはずせた時。
- 小型船にすら乗ったことがなく、実際に網を回収して魚をはずす作業は普段体験することができないことなので刺激的で新鮮でした。楽しくなかったことはなかったです。
- いろんな魚や、イカ、タコをはずすのが楽しかったです。後、タコとイカが網にかかるのがびっくりしました。
- 様々な魚等が見えてくるのがとても楽しかった。瀬戸内でしかとれない魚などを知ることができたのでよかった。網に絡まった魚を取り出す作業が少し難しく、結局漁師さんに頼ってしまうことが何度かあった。
- どのようにして、魚がとられているのかを知らなかったのも、新たな発見があったため、おもしろかった。また、今まで話したことがない人とも交流することもでき、新しいコミュニケーションの場にもなった。

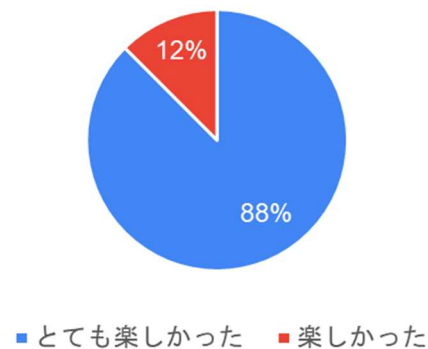
(5) 調理体験について

調理体験については、88%の参加者が「とても楽しかった」12%の参加者が「楽しかった」と回答しており、刺し網漁と同様に「普通」・「あまり楽しくなかった」・「楽しくなかった」と回答した参加者はいなかった。

調理体験もまたエコツアーのコンテンツとして非常に満足度の高いものであることを示している。魚を実際に捌き新鮮な魚を食べるという体験は多くの参加者にとって初めての体験であり、段々と上達していく

という過程を体験できたことが充実感に繋がったようである。エコツアーにおいて新鮮で楽しい体験を提供できたといえる。これまで嫌だったタコを楽しんで調理して食べられたという回答からは、体験することの大切さがわかる。獲れた魚を見て様々な調理法を考える過程が楽しかったという回答もあった。別の調理法も試したかったという回答もあった。

調理体験について (n=16)



■ 調理体験について(楽しかったところ、楽しくなかったところ)(自由記載; 参考として添付)

- 魚をさばくのが楽しかった。
- 魚をさばいたことがなかったので、新鮮な体験ができて楽しかった。
- 捌くのはとても難しかったけど上手いときは楽しかったです！釣った魚を新鮮なまま調理して食べたのがとても良い経験になったし、思い出になりました。
- 三枚おろしを初めてやれて良い体験になりました。
- 魚をさばくのは初めてだったから新鮮な経験で楽しかった。さばく以外の調理はやっていただいたので、待つだけだったが楽しかった。
- これもまた初めての体験だった。
- いろんな魚をさばけて楽しかったし、できたてを食べれたのも嬉しかったです。
- イカを初めて糸切りにした。細長い包丁が初めは使いにくかったけど、徐々にコツをつかんできて、最後は細く切ることができて面白かった。切りたての刺身が本当に美味しかった。次は煮魚が食べたい。
- 魚の捌き方を知らなかったし、そもそもやったことがなかったので、とても楽しかったです。この魚そんなふうに食べれるのか！ってなったものもあって、面白かったです。
- 久しぶりに魚をさばいてとても楽しかったです。料理は煮つけなどにしてみたかったです。
- 三枚おろしができた所。
- さばいたり、つまみ食した時
- 魚をさばくことに少し抵抗があったのですがやっていくうちに慣れて自分の中でも成長することができていい経験になりました。また調理方法がたくさんあることも知れてよかったです。
- 三枚おろしをした後に皮をはぐところがとても楽しかったです。
- 魚を捌くのは初めてでしたが、親身になって教えていただいたおかげで三枚おろしをすることができた。予め料理のメニューが決まっているのではなく、漁でとれた魚等で何がつくれるかを考える過程も楽しかった。
- たこがきらいだったけど、自分でとって、自分でゆで、自分で切ったたこはおいしく感じた。3枚おろしは初めての体験で楽しかった。

(6) エコツアーリズム、エコツアーについて

①エコツアーリズムの考え方や意味についての認知度
エコツアーリズムについて、考え方や意味の認知度は「知っていた」が19%、「言葉は聞いたことがあった」が38%であり、6割弱の参加者には認知されていた（右上図）。

②エコツアー参加経験

実際のエコツアーに参加したのは、全員「初めて」であり、エコツアーリズム、エコツアーにさらなる展開の余地があることが窺えた（グラフは割愛）。

③エコツアーに参加した感想

エコツアーについては「とても楽しかった」が81%、「楽しかった」が6%という回答であった（右中図）。

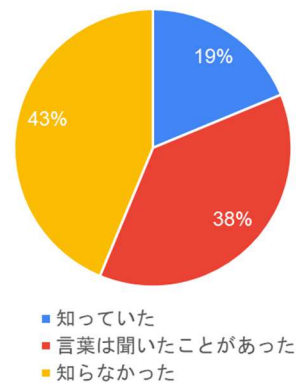
④エコツアーで人気の高かったコンテンツ

エコツアーのコンテンツの中で最も人気が高かったのが「魚介の調理体験（39%）」、次いで「刺し網漁体験（32%）」、「アマモ播種等作業（19%）」（海洋環境調査を含む）、「アマモ、藻場についての話（11%）」となっている（右下図）。

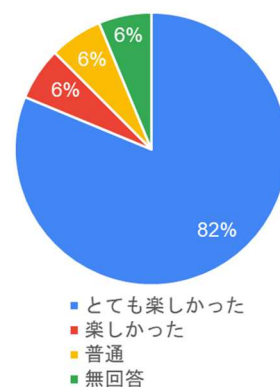
⑤エコツアーの中で体験してみたいこと

エコツアーの中で体験してみたいことについては「カヌー」「シュノーケリング」「素潜り」があがった他、「海中でアマモの実物が見たかった」という回答もあり、エコツアーによってアマモおよび海洋自然環境への関心が高まったことがわかる。また、「エコツアーを企画の段階から考えてみたい」という回答もあり、今後、中高生との協力の可能性も考えられる。「島内の特産物を存分に取り入れ、アピールできれば、エコツアーがより地域振興につながる」というエコツアーや地域活性化も視野に入れた意識の高い回答もあった。

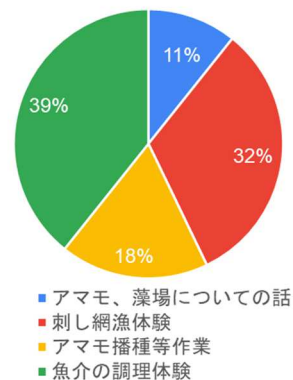
エコツアーリズムの考え方や意味についての認知度（n=16）



(n=16)



エコツアーで人気の高かったコンテンツ（n=16, 複数回答可）



■ エコツアーの中で体験してみたいこと（自由記載；参考として添付）

- どんなエコツアーがそれぞれの地域でできるのかはかわってくると思うので、企画の段階から考えることができれば楽しいと思う。
- アマモの動画は見たが、実際に見ることができなかったから、出来るなら実物が見たかった。
- カヌー
- シュノーケリング。素潜り。
- 何人かのグループに分かれて何力所かをめぐる（いいところ、オススメの場所）自然を体験したりできるなど
- 刺し網以外の漁も体験してみたいです。できたら普段あまりできないような漁の方法がいいです。
- 魚介の調理体験の際に、とった魚介類に加えて、島内の特産物を存分に取り入れ、かつアピールすることができれば、エコツアーがより地域振興につながるかもしれない。
- いかがとれた場合は、船の上で、すぐに刺身として食べたい。

(7) 大崎上島について

①大崎上島の魅力について

大崎上島の魅力については、海や自然の豊かさ・美しさ、野菜や果物といった特産物に加え、「人が優しい」「地域を繋げる機会が多い」「アクションを起こす人が多い」「交流が深い」等、人と人とのつながりについての回答が多かったのが印象的であった。観光の観点から総合的に考えると、エコツアー、体験学習に適した土地柄であることを参加者も認識していることがわかる。一方で、第1回、第2回共に、大崎上島の歴史や史跡に関する記述は見られなかった。

■ 大崎上島の魅力とは(自由記載；参考として添付)

- 海の豊かさ、美しさ
- 海に囲まれており、自然が豊かなところ。
- 地域のつながりだと思います。困っていたら絶対に助けて下さるあたたかさが親元からはなれている私達にとってとてもありがたいです。
- 自然に囲まれて暮らせる。地域内の交流が盛ん。
- 地域の人があたたかく、人と人とのつながりが密接なところ。海の景色が良いこと。食べ物がおいしいこと(地元の人が愛される食事処が多くある)。
- ミカン、ブルーベリーなどの特産物。人のあたたかさ、自然が豊か。星がきれいにみえる。
- 野菜や果物おいしい、人と人とのつながりがたくさんあるところ。
- 海の豊かさ、山の豊かさ、どちらも感じられるところ。島の伝統的なイベントが残っている。みかんが美味しい。
- 景色がいい、写真を撮るのにとれる場所が多い。人が優しい。安全。
- 海の景色がすごくきれい。地域の人が優しい。
- 自然豊か、景色がきれい
- 人が優しく、あたたかい所、イベントやプロジェクトなどが地域で頻繁に開催されていて、地域をつなげる機会が多い所。
- 海が近いところ、とくに瀬戸内海がキレイで豊か。柑橘類等の清算が盛ん。また、アクションを起こす人が多いのも良いところ。
- 授業など身近な所で、自然と関わることができる。また、島が小さいので、交流が深いものになる。

②大崎上島の魅力の発信方法について (大人への要望)

魅力の発信については、ほぼ全員が SNS (Instagram、Twitter、YouTube、TikTok) の活用をあげた。また、「現地を訪問した人にエコツアーを紹介する」「エコツアーでの体験を島外の人に伝える」という口コミの手法についての回答もあった。「今回のように高校生に発信して、そこから SNS を使って発信した方が、効率が良い」、「高校生たちで協力して企画したい」という意見もあり、こちらも今後の学生との協力の可能性を窺わせるものとなっていた。また、「テレビでの紹介」という意見も複数あった。「オンラインでエコツーリズムを行う」という意見もあり、これは「その場に身を置いて自然環境や歴史文化を体感する」というエコツーリズムの在り方とは一致しないが、エコツアーを展開する上での端緒としては興味深いものになる可能性があり面白いものとなる可能性もある。「大崎上島が旅行者に選ばれるためには、独自の魅力を押し出すべきであり、キャッチフレーズに工夫が必要」という鋭い意見も見られた。また、「ただの体験ではなく、一貫性を持たせたツアー、行程が重要」との意見もあり、ストーリー性を重要視するエコツーリズム的観点の意見もあり非常に興味深かった。

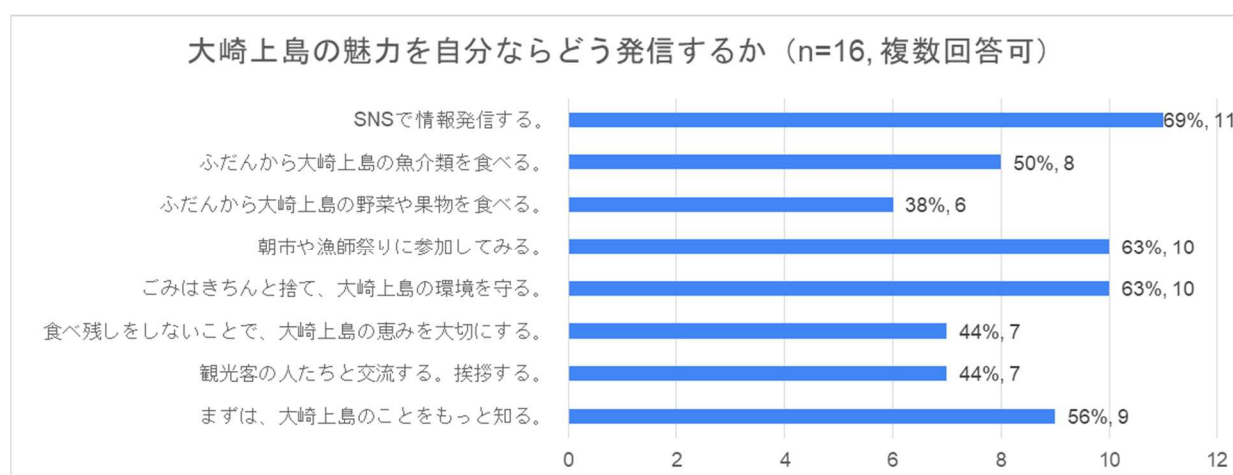
■ 大崎上島の魅力の発信方法について(大人への要望)(自由記載；参考として添付)

- SNS、Instagram、ツイッターなどで大崎の魅力を伝える
- テレビやYouTubeなどで有名な芸能人やYouTuberに紹介してもらう。
- SNSは強いと思います。若い世代の求める情報、親世代が求める情報等は変わってくると思うので、若い世代でSNSもあげたい！高校生たちが協力して企画したいくらいです！TikTok, YouTube, Instagram等日英で発信できたら良いと思っています。
- 大崎上島に来られない人やコロナ禍で安心して魅力を知ってもらうために、オンラインでエコツアーを行う。また、どんなことに興味があるかなど問うことで、参加者が実際に行きたくなるような行事を実施できるようにする。
- Instagramなど若者が多く使っているアプリなどで発信したり、映えている動画(30秒以内)を作成してTikTokなどで発信したりできると思う。
- テレビに出る。インターネットの有名人に紹介してもらう。学生が発信する。
- SNSの活用も大事だけど、今回のように高校生に発信して、そこからSNSを使って発信してもらった方が、効率がいいかなと考えました。
- SNSを使って島の美味しい果物、魚などの食材や美しい自然を広島内外の人に発信する。YouTubeを使って観光PR動画を掲載させる。
- エコツアーなど、イベントがあったことを島外の人に伝えることで、島外からの人に知ってもらえると思った。島外の人に知ってもらえたら、自然とこの島に来たいと思ってくれる人が増えるかもしれないと思います(自分も受験して寮に入るまでは島のことを全然知らなかったです)。
- SNSの利用、若者への発信
- SNSなど、#大崎上島
- SNSを通じてイベントなどを頻繁に発信して、来てもらった方には今回のエコツアーのような参加型イベントを紹介する。
- 瀬戸内海の豊かな自然やそれゆえの自然の恵みとしての果物などは、国内だけでなく国外のアウトドアが好きな観光客に効果的だと思う。海外に発信するにはSNSなどをフルに活用するだけでなく、魅力を最大化した、パッケージ化された魅力の売り出し方(ただの体験ではなく、一貫性を持たせたツアー、行程など)も重要だと思う。
- 大崎上島にしかない魅力を押し出す必要があると思う。個人的にどの島の売り文句も似ていると思う。その場合、旅行客などは、どの島でも同じになるので、大崎上島は選ばれなくなるのではないだろうか。大崎上島でしかできないことを見つけるor作ることが大切だと思う。あと、橋を本州と大崎上島に造る。

③大崎上島の魅力を自分ならどう発信するか

大崎上島の魅力を自分ならどう発信するかという問いに対し、一番多かった回答は「SNSで情報発信する。」であり、「朝市や漁師祭りに参加する。」「ごみはきちんと捨て、大崎上島の環境を守る。」が次に続いた。

大崎上島の魅力を発信するため自分ならどんな行動を起こすかについては、「家族や友人に上島の魅力を伝え、実際に来てもらう」という口コミの手法だけでなく、「自治体や取組をされている団体と協力した取組を行う」という官民連携について述べた回答や、「大崎上島でしかできないことを作る」という魅力の発見やコンテンツの開発に関する回答もあった。



■ 大崎上島の魅力を発信するため自分ならどんな行動を起こすか(自由記載；参考として添付)

- 家族や友人に上島の魅力を伝え、実際に来てもらう。
- 自治体や取組をされている団体と協力した取組をしてみる。
- 大崎上島でしかできないことを作る。

(8) その他の感想

エコツアー後に行った意見交換で出た意見は、アンケート回答と概ね同様であった。

■ ツアー参加後の感想(自由記載；参考として添付)

- 刺し網漁でタコを見てびっくりした。
 - 以前、海藻を海で見たときは邪魔なものだと思っていたが、今回のエコツアーを経て大切にしたいと思った。
 - アマモの播種から自分で撮った魚を捌いて食べるまで、初めてのことばかりだったが、新鮮で刺激的だった。色々なことをエコツアーで知ることができて良かった。
 - 漁船に乗るのも、網から魚をはずすのも初めての体験だった。いつも食事に出されているものよりも、自分の手で捌いた魚は美味しく感じた。日本、広島に住んでいて、海を守る活動をしないといけないと感じた。
 - 紙粘土を使ってアマモの播種するのは面白かった。自然を守っていききたい。
 - やったことのないことばかりで、自分にできるかなと思ったが、色々な人に助けをもらい出来て良かった。
 - 今回のエコツアーを通して、アマモが産業への重要性も持っているということがわかった。海の豊かさ、環境問題についても知ることができ良かったと思う。自分にも何かできればと思った。
 - 里海をきれいにするのが、島の人口増加や観光に繋がることになれば、一石二鳥だと思った。
 - イカが獲れた時、そのまま船で食べたかった。タコは好きではなかったが、自分で捌いて食べられたことで美味しいと思った。三枚おろしも初めての経験だった。
- この度は、「第2回 大崎上島の雄大な里海景観と海の恵みを体験し考察するエコツアー」を開催していただき、また参加させていただき、ありがとうございました。
海が人間にどのような恩恵をもたらしているのかという点について、座学と体験を通して深く学ぶことができました。特に「里海」という概念を通して、人間と自然の関わり方について深く考えるきっかけとなりました。
また、「エコツアー」という一般的な旅行とは異なる形態の旅行について知り、また身をもって学ぶことができました。私自身、大崎上島をはじめとした瀬戸内海の自然環境に興味があり、機会がございましたら、また、ぜひ関わらせていただきたいと思います。
貴重な体験をご提供いただき、重ねて御礼申し上げます。
ありがとうございました。
またの機会がございましたら、よろしくお願いいたします。

2.4.2 課題・改善点

参加者からの意見（アンケートの自由記載、ヒアリング）から考えられる今後の改善・対応内容を表 2.6 に示す。

表 2.6 参加者からの意見および改善・対応内容

	参加者からの意見	改善・対応内容
①	・座学でアマモの海の中での役割を知った上で播種をしたことが良かった。 ・里海は守るべきもの。この海を守りたいと思った。 ・里海がある、保全されていることによって、人が集まったり、観光になったりすることがわかった。 ・「里海」が「里山」と同じくらい大切だから、この言葉が浸透したら良い。等々	・今後も、事前の座学は必要。ただし、下の②のような意見もあるため、演出も考慮する必要がある。
②	・船上でアマモの説明をした方が、時間も短縮できるし、アマモも感じられる。	・季節や波浪の状況にもよるが、検討の余地あり。
③	・アマモが実際に生えているかどうか潜ってみたい。	・海上のコンテンツとして、シーカヤックだけでなく、シュノーケリングもコンテンツに加えられる余地あり。
④	・アマモ播種は様々な年代の人ができると思った。 ・今までに話したことのない人とも交流することができ、新しいコミュニケーションの場にもなった。	・「海辺を守る会」のアマモの取り組みを広く周知しても良いと考えられる。
⑤	・掛かった魚をすぐにどの魚かわかるのが面白かった。	・魚の解説も併せてできれば、さらに良いと考えられる。
⑥	イカが獲れた場合は、船上ですぐに刺身として食べたい。	・船上の調理担当の配置も、乗船人数等によって一考の余地あり。
⑦	・漁で獲れた魚などで何の調理ができるかを考える過程も楽しかった。 ・煮つけなどにしてみたかった（2名の意見）。	・ツアーの準備等の余力によるが、様々な調理に対応できる準備ができれば良い。
⑧	ツアー企画の段階から参画できたら楽しいと思う。	・一考の価値あり。当該学生の学校にアプローチし、学校とのコラボを試みる。
⑨	調理体験の際に、獲った魚介に加えて島内の特産物を存分に取り入れて、かつアピールすることができれば、エコツアーがより地域振興につながるかもしれない。	・一般参加型のツアーの際には、積極的に当案を採用する。

2.5 ツアー実施後のフィードバック（議事録）

ツアー企画段階で各種調整を協力して頂いた大崎上島町観光協会、大崎内浦漁業協同組合にアンケートの結果等のフィードバックを行った。その際のご意見を以下に整理した。

【大崎上島町観光協会／令和5年2月1日】

- ・ 刺し網漁体験や春に行っているアサリの潮干狩りなどは、漁協が主体となって行っているため、観光協会として特に関与しておらず、アンケートの内容についても特に関与できない。
- ・ ツアー企画段階から高校生が参画することについては、町の観光としては非常に面白そうだが、継続性の担保が必要。学校のカリキュラムとして組み込むのはハードルが高い。学校が乗り気になってくれれば、クラブ活動などの発足を働きかけるなどが考えられる。中長期的な仕掛けが必要と思う。

【大崎内浦漁業協同組合：組合長／令和4年12月25日】

- ・ 刺し網漁体験は、これまでニーズがあれば行ってきた。12/22も関東からの修学旅行生（高校生20名程度）を対象に、調理体験も含めて実施した。好評であった。刺し網漁体験には3隻の船を出した。
- ・ 漁協だけで刺し網漁体験を行う場合も、船上でアマモ場などの説明を行っている。
- ・ 参加者からの意見・要望に対しては、できる範囲で、少しずつ進化させていきたい。
- ・ 現在行っているアマモ場の造成、干潟の造成に加え、ガラモ場の造成も検討している。
- ・ 獲った魚の流通に関しては、基本島内での販売となっているが、活魚として生け簀に一時保存しておき、調理体験などのイベントに活用する方法もある。

2.6 有識者等の意見への対応

有識者等の意見への対応を表 2.7 に示す。

表 2.7 有識者からの意見および対応

	有識者からの意見	対応内容
①	・瀬戸エコ協は経験も豊富で先行的な団体だが、もうひとつ切り口を工夫するならば、 <u>＜これまで＞と＜これから＞を有機的に繋げる</u> ことだろう。	・これまでの瀬戸エコ協の活動の多くは、地域の要望にお応えするコンサルタントとしてエコツアーを造成してきた。大崎上島町での活動の目標は、藻場・干潟造成による漁業（里海）の再建、それに伴う地域交流・交流人口の増加など長期的プロジェクトである。今後、当協議会は地域のコーディネーターとして里海好循環構想を進める（図3.2参照）。
②	・「 <u>エコツアーの先の展開」「連携体制づくり」「大崎上島の好循環にどう繋げるのか」</u> という視点を持ち事業を実施し、報告書にもこうした点を入れ込んでいってほしい。	・エコツアーは地域資源の活用の一つの手段であり、地域を「知る・学ぶ」（＋感動する）が主たる目的である。そして、持続可能なエコツアーが地域経済の一部となり、その収益が地域資源の保全に繋がる循環を目指して、今後も継続的に活動する（図3.1参照）。
③	・エコツアーからの学びはもちろんOKだが、それだけではなく、例えば <u>脱炭素、プラスチック0、海ごみ0</u> といった視点を加え、 <u>ツアー自体を持続可能性のあるものにしていく</u> ことも良いだろう。	・1回目のツアー時では実施できなかったが、2回目のツアーでは、「片付けまでをツアーの一環」とし、ゴミを残さない活動も演出した。 ・近い将来だが、エコツアーにカーボンオフセットもコンテンツの1つになると想定している。ご指摘頂いた視点も踏まえ、今後のエコツアーに活用していく。

3 本業務の課題と成果、今後の展開等

3.1 ツアー主体者（大崎内浦漁業協同組合）

これまで大崎内浦漁業協同組合では、要望があれば刺し網漁体験等を行っていたが、今回の事業により、得られた成果を以下に示す。

- ① 組合長以外の組合員も、刺し網漁体験で網や船を出してくれる人が複数名できた。
- ② 刺し網漁体験がエコツアーのコンテンツとして有効であることがわかった。
- ③ 刺し網体験の単価について、船代¥50,000、網代（魚買取代）¥25,000 で問題なく実施可能であることが確認された。

補足条件：修学旅行・団体向けとしての設定。

乗船人数は使用船舶の定員数で決定。

一括料金のため最少催行人数の設定はなし。

- ④ 調理体験もエコツアーのコンテンツの1つとして有効であり、刺し網漁体験に加えることで、今後、客単価を上げていくことが見込める。

- ⑤ 近々、漁協のHPが完成するため、これからの漁協の様々な活動を発信することができる。

課題としては、もっと多くの組合員が積極的に関与してくれることが挙げられる。これについては、刺し網漁体験を継続的に実施し、集客も継続し、収益が上がることを認知させることが解決のカギと考えられる。

3.2 ツアー主体者（その他）

本事業では、当初、シーカヤックや古民家見学などを検討していた。今回は、時期的な問題や、先方の都合等で幅広い観光資源を活用できていない。今後、大崎上島町が保有する観光資源を、ストーリーをもったエコツアーとして繋げ、ネットワークの充実を図る必要がある。

3.3 大崎上島の里海好循環構想

当協議会は、数年前から大崎上島のアマモ場の保全・再生、干潟の再生など、当該海域の里海の保全に関与している。ここでは、本事業の成果も追加した今後の好循環の構想を図 3.1 に整理した。

今後、以下の取り組みを継続する（主に図 3.1 の黄色の網掛け部）。

- ・地元バス会社と漁協、観光協会とを繋ぐ活動を実施していく。
- ・「ツアーに「食」を加える」は、小規模なら実施可能。「刺し網体験ツアー」の新たなオプションとして広報する。その他、ネット販売の可能性を漁協に提供していく。
- ・「海辺を守る会」のアマモ場の保全・再生の活動の広報を支援し、今後、地域高校生が積極参加するか否かをモニタリングする。
- ・叡智学園ほか、関連高校に今回の結果をフィードバックすることで、アマモ場の保全・再生活動への参加を促す。
- ・高校生を巻き込み、高校生が企画する「エコツアー」をサポートする試みに挑戦する。
- ・四季を通じたエコツアー等のプログラムの造成と商品化を図る。

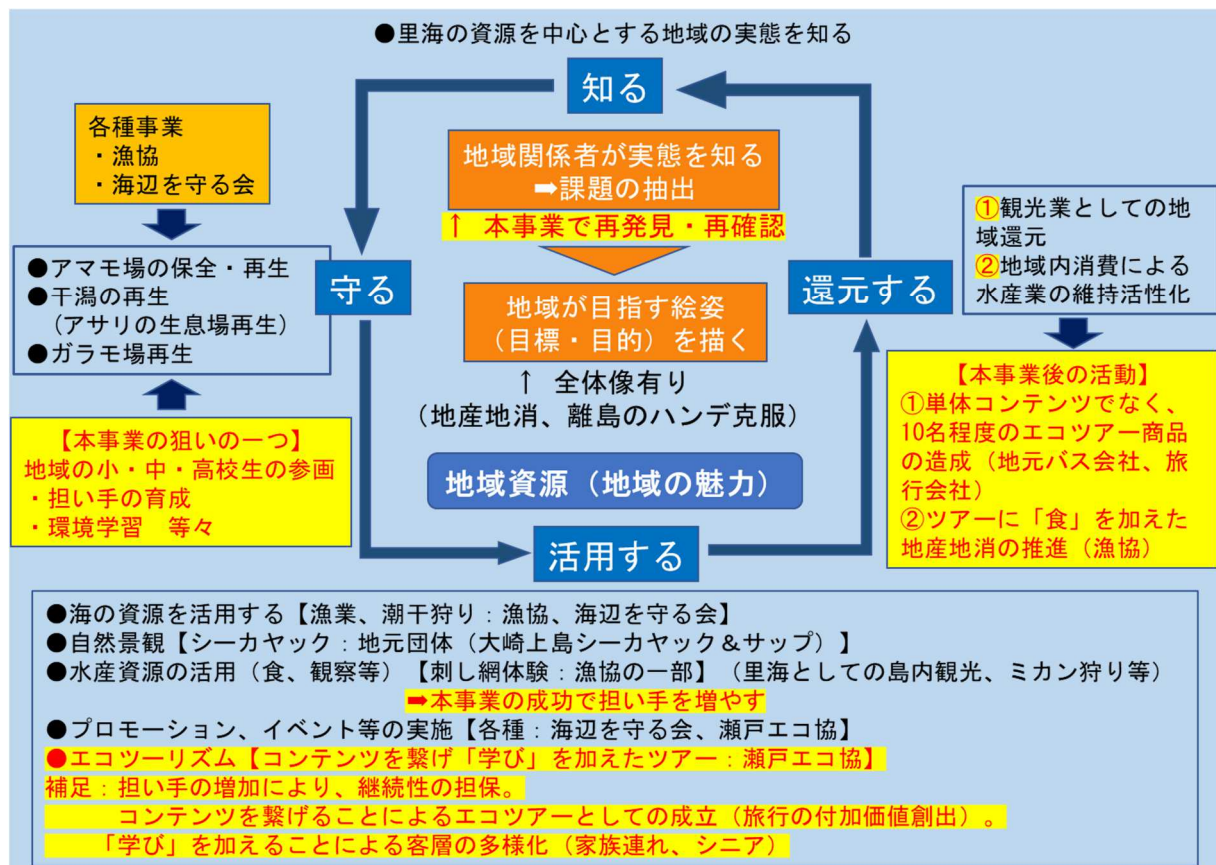


図 3.1 大崎上島の里海好循環の構想

3.4 自走化に向けた座組（役割分担）

3.2 章で示した里海好循環の構想について、現在イメージしている関係団体等の座組を表 3.1、図 3.2 に示す。

表 3.1 自走化に向けた座組（役割分担）

関係団体	役割
一般社団法人瀬戸内海エコツアーリズム協議会	エコツアーの企画・運営 (コーディネート／コンサル)
大崎上島地域の海辺を守る会	大崎上島内の関係者調整
大崎内浦漁業協同組合 他	エコツアーの実施
広島県立広島叡智学園 広島商船高等専門学校 広島県立大崎海星高等学校	エコツアーへの参加 エコツアーの共同企画
旅行会社 株式会社たびまちゲート広島 スマイルバス株式会社 等	エコツアーの販売
大崎上島町役場地域経営課	広報・許認可
大崎上島町観光協会	広報

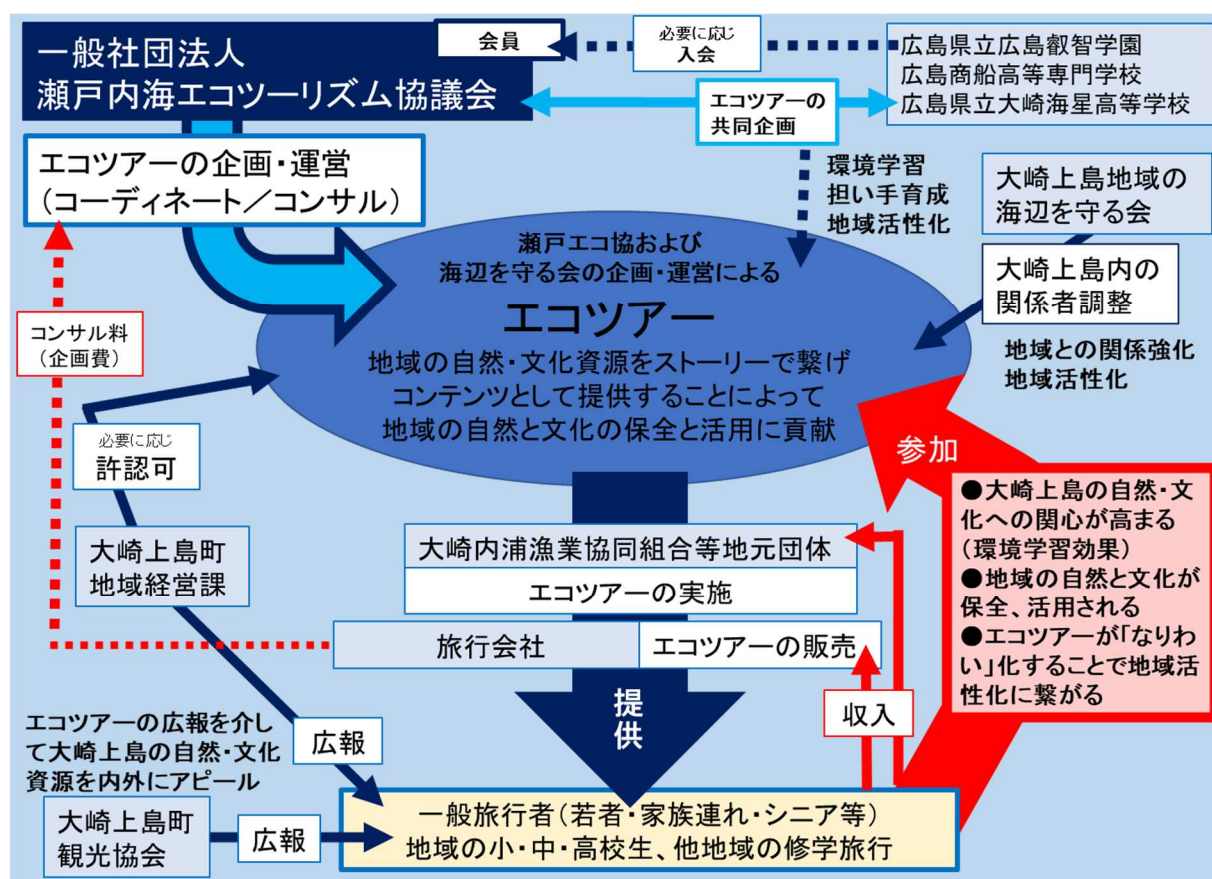


図 3.2 自走化に向けた座組（役割分担）

3.5 評価指標について

業務着手時に発注者から頂いた評価指標（成果指標）のうち、本業務で該当する内容を表 3.2 に整理した。

今後も、この評価指標を参考に、大崎上島の「里海づくり」を大崎上島の海を守る会、大崎内浦漁業協同組合とともに協議、進捗させていく。

表 3.2 評価指標（成果指標）

サステナブルな環境
里海の管理 - 自然・環境保全のためのルールと順守状況 - 里海の自然や生物等の調査やリスト作成
里海環境に対する負の影響 自然・環境に対する負の影響を緩和するための措置の有無（注意喚起、人数制限、エリア設定）、注意喚起・啓発等の実施状況
里海保全に関する情報発信 - 里海の自然・環境及びその保全に関する解説やガイド等の有無・参加者数 - 里海の自然・環境及びその保全に関するプロモーションの状況 - 自然・環境及びその保全に関するプロモーションの浸透度（アンケート） - 自然・環境及びその保全に関する認知度（アンケート）
里海保全に対する地域の認識と参画 - 里海保全について地域への理解促進のための活動数、プログラム数 - 里海保全について地域住民・漁業者・企業等との意見交換の活動数、参加者数 - 地域住民の里海保全活動に対する認識、評価（アンケート） - 里海での教育等の実施状況 - 地域住民による自然・環境へのアクセス状況（アンケート） - 地域住民による自然・環境保全活動、体験・活用プログラムへの参加状況
サステナブルな経済
持続可能な生産活動 自然資源を活用したブランディングの状況
地域経済への貢献と波及、循環の状況 域内生産への影響 地場産品の活用状況
里海保全活動に関連した参加者の満足度 - 活動やエコツーリズムへの参加者の満足度（アンケート） - エコツアーに対する認識（アンケート）
サステナブルな社会
地域や文化に関する情報発信 地域や文化に関する認知度（アンケート）



卷 末 資 料

■ ツアー集客用チラシ

- 第1回・第2回チラシ (A4 タテ)



第1回 2022年11月26日(土)
 第2回 2022年12月10日(土)

大崎上島で
無料 刺し網漁体験!!

大崎上島の雄大な里海景観と海の恵みを体験するエコツアー

日時	第1回 2022年11月26日(土) 8:30~15:00 第2回 2022年12月10日(土) 8:30~15:00
対象	大崎上島の高校生・専門学校生 または この活動に関心のある方
参加費	無料 ※あたたかく、動きやすい服装でお越しください。
持ち物	アクティビティに必要なものは主催者側で準備します。
主催	一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会
共催	大崎上島地域の海辺を守る会 大崎内浦漁業協同組合 大崎上島町観光協会

時間	プログラム
8:30-8:50	集合 大崎内浦漁業協同組合 広島県豊田郡大崎上島町中野4930-21
8:50-9:30	オープニング ～大崎上島の漁場環境となりわいである漁業について～
9:30-10:00	アマモ、藻場について知ろう
10:00-10:15	船上の安全確保について
10:15-12:15	刺し網漁体験 アマモ播種体験
12:15-13:15	刺し網で獲った魚介の調理体験 ～食べること・食材・魚の生息環境を繋げよう～
13:15-14:30	昼食・意見交換 ～アイデアを大人たちに届けよう～
14:30-15:00	アンケート

・当日の天候により、一部内容の変更もございます。

● ツアーの目的

- ・ 大崎上島の自然を体感し、なりわいである漁業について学ぶ。また自然や文化を支える自然(里海)について考える。
- ・ 水産資源を育むアマモ、藻場について知る。
- ・ 大崎上島の漁法について知る。
- ・ 食べることと、食材と、魚の生息環境を繋げていく。

● 意見交換

交流、交通、情報発信、流通(物流拠点)、藻場・干潟の保全と資源活用の観点から意見交換
 参加者のみなさんからいただいたご意見は、事務局でとりまとめ、大崎上島の漁業や観光等、地域活性化に携わる方々、環境省にフィードバックします。いろんなアイデアを出してみてください!

申込期限

第1回 11月22日(火) 17:00

第2回 12月7日(水) 17:00

※定員になり次第、受付を終了致します。

<エコツアーとは> エコツーリズムとは、自然環境や歴史文化を体験し学ぶとともに、こうした地域固有の資源の保全に責任を持つ観光の在り方で、この考えに則って行われる旅行をエコツアーといいます。

本ツアーは、環境省令和4年度「令和の里海づくり」モデル事業の一環として実施されます。



お問合せ・お申込みはこちらまで *メールにてご連絡下さい。

一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会事務局(担当: 米花・富田・谷本)

〒734-0013 広島県広島市南区出島1-11-14 setouchi.eco.tour@gmail.com TEL: 082-259-3371

(裏面)

大崎上島の雄大な里海景観と海の恵みを体験し考察するエコツアー

集合場所

大崎内浦漁業協同組合

広島県豊田郡大崎上島町中野4930-21

当日、8:30までにお越しください。

持ち物

アクティビティに必要なものは主催者側で準備します。

●お申し込みいただきました後に詳しい内容をお伝えします。

お申込み

以下についてメールでお知らせください。保険加入等に必要な情報です。必ずご記入下さい。

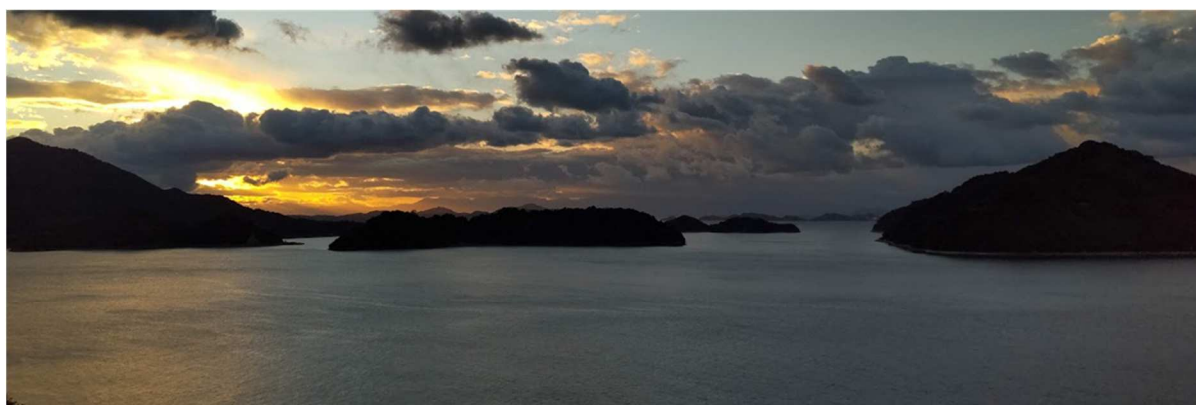
申込締切 第1回 2022年11月22日(火) 17:00まで

第2回 2022年12月 7日(水) 17:00まで

連絡先 setouchi.eco.tour@gmail.com

- ・ お名前(ふりがな)
- ・ 生年月日
- ・ 性別
- ・ (学校名)
- ・ 住所
- ・ 電話
- ・ Email

※参加申し込みをいただいた方には、事務局より受付確認含め別途ご案内させていただきます。
※ご記入いただいた個人情報については、目的の範囲内で利用し、これらの目的以外で利用する場合には、利用者に対し事前に確認または同意を求めます。
個人情報の保護に関する法令に則り、ご本人の許可なく第三者に提供および公開することはありません。



お問合せ・お申込みはこちらまで [*メールにてご連絡下さい。](mailto:setouchi.eco.tour@gmail.com)

一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会事務局

(担当: 米花・富田・谷本)

〒734-0013 広島県広島市南区出島1-11-14 TEL: 082-259-3371

Email: setouchi.eco.tour@gmail.com

- 第1回開催後に修正を加えたチラシ（最終版、A4 ヨコ）

高校生からの意見を受け、ツアーの内容が分かりやすい写真を掲載し、QRコードからGoogleフォームにアクセスできるものに変更した。





紙粘土にアマモの種をつけていきます

乗船して出発！

アマモの播種

2022年12月10日（土）開催！

第2回 大崎上島の雄大な里海景観と海の恵みを体験し考察するエコツアー

大崎上島で 無料 刺し網漁体験！！

お申し込みはこちらから







海洋調査体験

刺し網漁体験

刺し網漁で獲れた魚を捌いて食べましょう！

日時 2022年12月10日（土）8:30～15:00
対象 大崎上島の中学生・高校生・専門高校生 またはこの活動に関心のある方
参加費 無料 ※あたたかく、動きやすい服装でお越しください。
持ち物 アクティビティに必要なものは主催者側で準備します。
主催 一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会
共催 大崎上島地域の海辺を守る会 大崎内浦漁業協同組合 大崎上島町観光協会

集合場所
大崎内浦漁業協同組合
 広島県豊田郡大崎上島町中野4930-21
 当日、**8:30**までにお越しください。

時間	プログラム
8:30-8:50	集合 大崎内浦漁業協同組合
8:50-9:30	オープニング ～大崎上島の漁場環境となりわいである漁業について～
9:30-10:00	アマモ、藻場について知ろう
10:00-10:15	船上の安全確保について
10:15-12:15	アマモ播種・海洋調査体験 刺し網漁体験
12:15-13:15	刺し網で獲った魚介の調理体験 ～食べること・食材・魚の生息環境を繋げよう～
13:15-14:30	昼食
14:30-15:00	アンケート／参加者交流 ～エコツアーの感想や大崎上島について話そう～

・当日の天候により、一部内容の変更もございます。

申込期日 12月8日（木）17:00
 ※定員になり次第、受付を終了致します。

- **ツアーの目的**
- ・大崎上島の自然を体感し、なりわいである漁業について学ぶ。また自然や文化を支える自然（里海）について考える。
 - ・水産資源を育むアマモ、藻場について知る。
 - ・大崎上島の漁法について知る。
 - ・食べることで、食材と、魚の生息環境を繋げていく。
- **ツアー後に、感想や、いろんなアイデア、お話を聞かせください！**
 参加者のみなさんからいただいたご意見は、事務局でとりまとめ、大崎上島の漁業や観光等、地域活性化に携わる方々、環境省にフィードバックします。いろんなアイデアを出してみてください！

お申込み

オモテ面のQRコードからGoogleフォームにアクセスし、以下について記載の上 お申し込みください。
保険加入等に必要な情報です。必ずご記入下さい。

- ・ お名前（ふりがな）
- ・ 生年月日 ・ 性別
- ・ 学校名
- ・ 住所 ・ 電話 ・ Email

※参加申し込みをいただいた方には、事務局より受付確認含め別途ご案内させていただきます。
 ※ご記入いただいた個人情報については、目的の範囲内で利用し、これらの目的以外で利用する場合には、利用者に対し事前に確認または同意を求めます。
 個人情報の保護に関する法令に則り、ご本人の許可なく第三者に提供および公開することはありません。

<エコツアーとは>

エコツーリズムとは、自然環境や歴史文化を体験し学ぶとともに、こうした地域固有の資源の保全に責任を持つ観光の在り方で、この考えに則って行われる旅行をエコツアーといえます。

本ツアーは、環境省令和4年度「令和の里海づくり」モデル事業の一環として実施されます。



お問合せ先 一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会事務局（担当：米花・富田・横石・谷本）
 〒734-0013 広島県広島市南区出島1-11-14 setouchi.eco.tour@gmail.com TEL: 082-259-3371 HP <https://setocokyo.jimdofree.com/>

■ アンケート用紙



2022 年度（令和 4 年度）

大崎上島の雄大な里海景観と海の恵みを体験し考察するエコツアー アンケート

今日をご参加いただき、どうもありがとうございました。今日のエコツアーについて、みなさんの率直なご意見・ご感想をお聞かせください。みなさんのご意見やご感想を、大崎上島の水産業やエコツアー活動等にいかしていければと思っています。

1. 基本情報

- 1－1 あなたの性別を教えてください。 1－2 あなたの出身地を教えてください。
- 性別 1 男性 2 女性 出身地 1 島内 2 島外

2. 里海について

- 2－1 里海の考え方や意味を知っていましたか？

選択肢： 1 知っていた 2 言葉は聞いたことがあった 3 知らなかった

- 2－2 今日のエコツアーを体験して、里海についてどう考えるようになりましたか？（自由記載）

3. アマモについて

- 3－1 アマモについて知っていましたか？

選択肢： 1 知っていた 2 言葉は聞いたことがあった 3 知らなかった

- 3－2 アマモ場は海の中でどんな役割を果たしているか、今日のエコツアーの中で理解が深まったと思いますか？

選択肢： 1 よくわかった 2 わかった 3 あまりわからなかった 4 わからなかった

- 3－2 アマモの播種などの作業をしてみて、いかがでしたか？例えば、一連で全部体験してみたいと思いましたか？（自由記載）

4. 刺し網漁について

4-1 刺し網漁体験は楽しかったですか？

選択肢： 1 とても楽しかった 2 楽しかった 3 普通 4 あまり楽しくなかった
5 楽しくなかった

4-2 どんなところが楽しかったですか？または、どんなところが楽しくなかったですか？ (自由記載)

5. 調理体験

5-1 調理体験は楽しかったですか？

選択肢： 1 とても楽しかった 2 楽しかった 3 普通 4 あまり楽しくなかった
5 楽しくなかった

5-2 調理体験のどんなところが楽しかったですか？または、こんな料理をしてみたかったなど はありますか？(自由記載)

6. エコツーリズム、エコツアーについて

6-1 エコツーリズムの考え方や意味を知っていましたか？

選択肢： 1 知っていた 2 言葉は聞いたことがあった 3 知らなかった

6-2 今までにエコツアーに参加したことがありますか？

選択肢： 1 参加したことがある 2 初めて参加した

6-3 今日のエコツアーは楽しかったですか？

選択肢： 1 とても楽しかった 2 楽しかった 3 普通 4 あまり楽しくなかった
5 楽しくなかった

6-4 今日のエコツアーの中で、どのプログラムが楽しかったですか？（複数選択可）

選択肢： 1 アマモ、藻場についての話 2 刺し網漁体験 3 アマモ播種等作業
4 魚介の調理体験 5 特になし

6-5 エコツアーの中で、「こんなことをやってみたい」というようなことはありますか？
（自由記載）

--

7. 大崎上島について

7-1 大崎上島の魅力はどんなところだと思いますか？（自由記載）

例えば、海の景色や山の豊かさ、住みやすさ、野菜や柑橘類などの食べ物
他には、造船業や漁業などの産業や神社やお祭りなど

--

7-2 どうすれば大崎上島の魅力が発信できると思いますか？（大人への意見・要望）

--

7-3 自分ならどうしますか？（複数選択可）

- 1 SNS で情報発信する。
- 2 ふだんから大崎上島の魚介類を食べる。
- 3 ふだんから大崎上島の野菜や果物を食べる。
- 4 朝市や漁師祭りに参加してみる。
- 5 ごみはきちんと捨て、大崎上島の環境を守る。
- 6 食べ残しをしないことで、大崎上島の恵みを大切にする。
- 7 観光客の人たちと交流する。挨拶する。
- 8 まずは、大崎上島のことをもっと知る。
- 9 その他 「自分ならこうする」ということがあれば教えてください。（自由記載）

--

どうもありがとうございました！

